

陸：

「えっ、二人で住むんですか？」

葵：

「あっ、何勘違いしてるのよ」

「私の家族も一緒よ」

「私はこれ迄、何人もの生徒のコーチをして来たから、ちゃんと選手専用のお部屋もあるのよ」

「トレーニングルームもあるから、トレーニングはそこですよ」

「それと、君専用の料理人も用意したわよ」

「ごはんは大事だからね」

「学校と君のご両親からの承諾はもう取ってるわよ」

「いいわよね」

陸：

「いろいろありがとうございます」

「よろしくお願いします」

葵：

「良かった」

「それと君の事は、陸って呼び捨てで構わないわよね」

「私の事も下の名前で呼んで欲しいわ」

「葵さんでいいわよ」

陸：

「分かりました、葵さん」

葵：

「今までのビデオとデータから分析した結果、100mで勝負しようと思うの」

「その為には、下半身を重点的にトレーニングして行こうと思うの」

「それで早速なんだけど、陸のカラダを見たいの」

「ハダカになってよ」

陸：

「えっ、ハダカですか？」

「分かりました」

陸、服を脱いで、パンツだけの裸になる。

葵：

「パンツも脱ぐのよ」

陸：

「えっ、パンツもですか？」

「恥ずかしいです」

葵：

「何恥ずかしがってるのよ」

陸：

「だって、葵さんに、ちんこ見られるの恥ずかしいです」

葵：

「私は、大丈夫よ」

「いろんな男のコのおちんちんを見て来たから、
見慣れてるのよ」

「だから、早く脱ぐのよ」

陸：

「分かりました、葵さん」

陸、パンツを脱いで全裸になる。

陸：

「これでいいですか？」

葵：

「恥ずかしがらなくていいのよ」

「陸のおちんちん、立派よ」

「自分に自信もつのよ」

「それじゃあ、筋肉の状態を見るから、そのまま立っているのよ」

葵、陸のカラダ中の筋肉の状態をまんべんなく見る。